

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3 年計画の 2 年目)

1. 研究課題

『文史通義』研究

A Study on " Wenshi tongyi"

2. 研究代表者氏名

古勝隆一

KOGACHI Ryuichi

3. 研究期間

2015 年 4 月 - 2018 年 3 月 (2 年度目)

4. 研究目的

章学誠(1738-1801)『文史通義』は、中国文明における文献と史学の意味を根本からとらえ直す偉大な著作であり、文献実証主義的を越えて、さまざまな方法論に基づく読みが可能な文献である。本書の遠大なる構想を解明するため、文献学・史学・文学・思想史など、多角的な面から検討を加える会読を行う。本研究班ではこの『文史通義』内篇に詳細な訳注を加え、本書を十全に読解することを目的とする(外篇については、内容の選定が難しいことと、分量的な問題を考慮して、この研究計画では訳注を行わない)。訳注稿は『東方学報』京都に分載する予定である。

5. 本年度の研究実施状況

本年度は 4 月 19 日に最初の研究班を開催して以来、おおむね 2 ヶ月に 3 回のペースで『文史通義』の会読を実施した。前年度に引き続き、活潑な議論を重ねており、問題が完全に解決してない部分については、議事録を作成し、後日あらためて検討することができるよう記録を保管してある。あらかじめ担当者を決めて、会の数日前に訳注稿を各班員に配布し、班員が事前に目を通した上で研究班に出席する方法を採用したため、研究班では効率的に議論することができた。本研究班では『文史通義』内篇五巻を訳出することを目的としており、巻一の部分については、2016 年 8 月の時点で『東方学報』に入稿をすませ、同年 12 月現在、初校を行っているところである。また巻二については、まだ訳出を終えていないが、年度内には訳注を完成させ、2017 年 8 月、『東方学報』に入稿する予定である。

7. 本年度の研究実施内容

2016-04-19

『文史通義』巻二「原道下」訳注、および『文史通義』巻一の訳注出版に関する打ち合わせ

『文史通義』巻二「原道下」訳注

発表者 山口智弘 二松学舎大学

『文史通義』巻一の訳注出版に関する打ち合わせ

発表者 古勝隆一

2016-05-17

『文史通義』巻一の訳注の最終確認

発表者 古勝隆一

2016-06-21

『文史通義』巻二「原学上」「原学中」訳注

発表者 重田みち 京都造形芸術大学

2016-07-05

『文史通義』巻二「原学中」「原学下」訳注

『文史通義』巻二「原学中」訳注

発表者 重田みち 京都造形芸術大学

『文史通義』巻二「原学下」訳注

発表者 古勝隆一

2016-07-19

『文史通義』巻二「博約上」訳注

発表者 田訪 京都大学大学院文学研究科

2016-10-18

『文史通義』巻二「博約中」訳注

発表者 藤井律之

2016-11-15

『文史通義』巻二「博約下」訳注

発表者 宇佐美文理 京都大学大学院文学研究科

2016-12-06

『文史通義』卷二「言公上」訳注

発表者 古勝隆一

2016-12-20

『文史通義』卷二「言公上」訳注

発表者 古勝隆一

2017-01-17

『文史通義』卷二「言公中(前半)」訳注

発表者 内山直樹 千葉大学

2017-02-07

『文史通義』卷二「言公中(後半)」訳注

発表者 内山直樹 千葉大学

2017-02-21

『文史通義』卷二「言公下(後半)」訳注

発表者 竹元規人 福岡教育大学

8. 共同研究会に関連した公表実績

班長は、下記の学会に参加し、『文史通義』に関する発表を行った。

(1)「離詞、辨言、聞道——古典研究再出發」(台湾、中央研究院文哲研究所、2016年6月11日、12日)にて、研究発表「事溯已往,理闡方來-章學誠的校讎學與出土資料」。

(2)「儒道國際學術研討會一(七)近當代」(台湾師範大学、2016年11月5日、6日開催)にて、研究発表「近代目錄學教科書的出現—關於余嘉錫『目錄學發微』」。

また、班長・班員の宇佐美文理氏、同じく班員の永田知之氏とともに、以下の書籍を出版した。

『目錄学に親しむ:漢籍を知る手引き』(研文出版、京大人文研漢籍セミナー6、2017年3月)。

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	7 (0)	0	0	0	52 (0)	0	0	0
学内	1	9 (2)	3 (2)	6 (2)	6 (2)	52 (10)	16 (10)	38 (10)	3 (0)
国立大学	2	2 (0)	0	0	0	20 (0)	0	0	0
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立大学	3	3 (1)	0	0	0	24 (12)	0	0	0
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
独立行政法人等公的研究機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民間機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外国機関	1	1 (0)	1 (0)	0	0	6 (0)	6 (0)	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	8	22 (3)	4 (2)	6 (2)	6 (2)	154 (22)	22 (10)	38 (10)	3 (0)

※()内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	8(6)
------	------

※()内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

13. 次年度の研究実施計画

昨年度・本年度に引き続き、『文史通義』巻三の訳注を続ける予定である。研究会の開催頻度はおおむね本年度に準ずるが、9月については開催する予定なので、回数は今年度よりも若干増える。なお、本年度同様、毎回の研究班に関して議事録を作成する予定である。月に二度程度の研究班を開催する一方で、すでに研究班の討論を経て修正意見が出された原稿を再整理し、『東方学報』への投稿を準備する。『文史通義』内篇巻一については、すでに投稿

済みであり、現在、巻二の整理を進めているところである。

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

完成した『文史通義』内篇の訳注稿については、『東方学報』への投稿を準備している。5回に分けて掲載の予定。今年度、巻一に相当する分を『東方学報』にて公刊する。